

あなたのとなりに、尼社協ボランティア情報だより

第325号/2025年9月発行

ゆうりん



公式SNS、
ぜひご覧
ください♪



@AMASYAKYO.9043



わたしと、ボランティア。④

1996年に発足した「ハンドル」というボランティアグループに所属され、その後2015年度には個人でボランティア登録。いきつけのお店で話したことがきっかけで、常連さんも収集ボランティアに巻き込むなど、人との出会いを大切にされている大堀さんに、お話を聴きました。



ボランティアグループ「ハンドル」は、社協が「移送サービス事業*」を実施していた時代、この事業をサポートしてくださるボランティアのみなさんでグループ化されました。大堀さんも、当時のボラセンのコーディネーターからの誘いがきっかけで、運転ボランティアの一人として活動をスタート。阪神・淡路大震災では、仮設住宅から復興住宅に移る方の荷物運びなどもあったようです。



*公共交通機関の利用が難しい高齢の方、障害のある方を対象に、リフト付きの車で通院や外出時の送迎を行い、日々の暮らしを支える事業。

介護保険制度や障害者自立支援法（今の障害者総合支援法）等、時代の流れを受け、運転ボランティア（グループ）としての役割は一定終えられましたが、今でも個人ボランティアとして活動を続けておられます。

30年以上、ボランティアを長く続けておられる秘訣は「人との出会いがある」「自分が必要とされている」から、とのこと。「ボランティアでいろいろな人に出会います。深いつながりはなくとも、その時その時を楽しく過ごし、いろいろな経験ができることがボランティアの醍醐味」と、お話されている時の笑顔が印象的でした。

ボラセンが大物町にあった頃は、「和楽園（ぼちボラの会の前身）」でみなさんが整理してくださった使用済み切手を、梅田まで自転車で！届けてくださっていました。当時から、ボラセンと直接つながりがないお友達にも、切手収集の活動を広めてくださっていて、まさにボラセンの広報隊長！現在は「プルタブ」収集にもご協力いただいています。



今回は、西難波町にある創業50年超の「お食事処 いづもや」さんで取材をさせていただきました。実は大堀さん、ここの40年来の常連さんで、プルタブ収集のことを店主のお母さんに話されたことがきっかけで、「それなら協力するで」と常連さんもひっくるめてお店で収集活動にご協力いただいています。お店に集まったプルタブは、大堀さんがボラセンに運んでくださっています。



「いづもや」さんは夕方からは居酒屋として、知る人ぞ知る地域の交流の場になっています。店主のお母さんは一人で手際よく厨房を行ったり来たり、お客さんはみんな顔なじみで、勝手知ったるなんとか…で「お母さん、ビールもらうで〜」と、お昼からみなさんで楽しまれており、初めてでも居心地のいいアットホームなお店でした。

大堀さんのボランティアを一文字で表すと、昔も今も「運」ではないかなと思います。「運」転ボランティア、プルタブを「運」んで届けてくださるのもそうですね。ただ運ぶだけでなく、こうしてボランティアの参加のきっかけを広げて、縁をつむいでくださるメッセンジャー！

これからも“できる時に、できる人が”のゆるやかなつながりでボラセンとつながっていただけたら嬉しいです！



←一番左が大堀さん、常連のみなさんと一緒に。



✎ “ボランティア”の現場から。⑬

約40年以上も活動されている「朗読グループ エコー」さん、現在は17人のメンバーで活動中！市報や介護保険だよりの音訳をはじめ、新聞小説や将棋符等を音訳され、オリジナルCDを作って、視覚障がいのある方へお届けされています。

「人のために活動することは自身の生きる原動力になります。ぜひいっしょに活動していただけたら」「コロナ下で休止になった高齢者施設での朗読も、今後広げていきたい」と、メンバーも募集中とのこと！

エコーさんは、ほっと館を拠点に活動されており、みなさん本当に熱心に、録音室や活動室によく来られ、活動されています。録音機に向かって朗読し、そこにはいない誰かのためにいろいろと工夫されながら取り組まれていることを改めて感じました。

直接リスナーの方から感想を聞く機会がないということで、ボラセンもそのような場を作れたらなと思いつつ、「もっとたくさんの人に届けたい」という熱心なお気持ちを強く強く感じる取材でした。



ちょっとおさらい。「ボランティアセンターに集まったプルタブの使い道は？」

集ったプルタブは金属業者に買い取ってもらい、そこで得た収益(全額)に社協の「善意銀行」から寄付金を上乗せして、市内のこども食堂へ配分しています。

コーディネーター
ひとりごと。



本当に「塵も積もれば山となる」な地道な活動ですが、多くのみなさんが共感してくださり成り立っています。取材させていただいた「いづもや」さん以外にも、この活動に賛同し協力して下さる飲食店さんや事業所さん、個人ボラさん、団体さんがおられます。中には「知らないうちにボランティアに参加していた」人や「参加していることに気が付いていない」人もおられるかもしれませんね。



何はともあれ、今回の取材を通して、ボラセンと直接的な接点はなくても、プルタブ収集というカタチでつながってくださっている方が、尼崎にはたくさんいらっしゃることを改めて感じました！ありがとうございます！

ぼちボラの会

9月16日(火) 10時から11時30分

尼社協ほっと館1階ロビー

- 当日参加できます(申込みなし)
 - いつ来ても、いつ帰っても大丈夫です
 - 持ちものは、ありません。
 - エコ封筒づくりや切手整理などをします
- *ボランティアのご相談も、お気軽に！



10月は14日(火)
に開催します！
当初の予定から
変更しています。
ご注意ください！

【つづける、つながる、“ちから”になる。】いつも収集活動、ありがとうございます！

—順不同・敬称略—

【切手・プルタブ】

劉成朝/命知社/NPO 法人神戸救急グループ/ハピネス
/大北あや子/演劇グループ淡海プロデュース/花道会/
稲葉園/川崎和恵

【切手(整理含む)】

北部障害者支援課/藤井棟昭/山本幸子

【プルタブ】

大西町見守隊/西難波友の会/浦富健二/大西老人クラブ/びいす/
中崎純子/沢本仁一朗/阪神尼崎ラジオ体操会★/南武庫之荘
はなみずき会富松・第三住宅福祉協会/稲葉荘社会福祉協議会★
/NPO法人はばたく会/西昆陽福祉協会/稲葉荘社会福祉連絡
協議会/和田笑/永岡正志(2ef)/吉田明/つぼみの会/門前静枝

【発行】尼崎市社会福祉協議会ボランティアセンター 〒661-0033 尼崎市南武庫之荘3-24-5 尼社協ほっと館3階

電話 06-4950-8863(平日9時~17時) / ファクシミリ 06-4950-8913 / メール amavc@dream.ocn.ne.jp

■「ゆうりん」をメール配信で受け取りたい方は、メールにてご連絡ください。